

「虫屋」とは？－リフレームによる言葉の分析

(「みんなで文化昆虫学の研究をしよう！」気ままに実践編①)

What is the term “Mushi-ya”? – analyzing the term by the reframing it

高田 兼太¹⁾

Abstract: In the field of cultural entomology, we can study the term in associated with insects. In this paper, I analyzed one of the Japanese term "Mushi-ya (虫 屋)" which indicate people who enjoy activities associated with insects (e.g. insect collecting, insect keeping) as hobby and who feel insects very special, by the reframing it as an analyzing technique of a term. Synonyms for "Mushi-ya" are "Konchu mania (昆虫マニア : insect mania)", "Konchu Aikouka (昆虫愛好家 : insect lover)" but nuance of each term seems to be different, because the term “Mushi-ya” is frequently used by Mushi-ya themselves but is not used by general public, who often use “Konchu mania” or “Konchu aikouka” instead. The term Mushi-ya conveys a positive image in contrast to other terms which often convey neutral or negative image. The term Mushi-ya indicates their pride as insect lover and/or insect specialist have in what they do, as well as respect toward insect lover and/or insect specialist.

文化昆虫学とは、人々に対する昆虫の影響について研究する人文科学である (Hogue, 1980 ; Hogue, 1987 ; 高田, 2013a). 文化昆虫学では、昆虫が関係する文化事象を研究対象とするため、昆虫がかかわる言葉に関する問題もまた研究課題にすることができる (Hogue, 1987 ; 高田, 2013b). 昆虫そのもの、および昆虫と人との関わり (相互作用) は実に多様であるため、昆虫がかかわる言葉も数多く存在する。しかしながら、研究アプローチが確立されていないためか、意外な言葉の意味や概念がまだはっきりしていないことも多いように思われる。

「虫屋」という言葉がある。この「虫屋」は、昆虫愛好文化が発達していると思われる日本ならではの言葉かもしれない。しかしながら、この「虫屋」という言葉をうまく説明できる人はいるだろうか? 「虫屋」は、あまり一般的な言葉ではないので辞書には掲載されていないが、はてなキーワードにその意味についての記述がある。はてなキーワードとは、話題の言葉をウェブユーザーみんなで解説する無料の百科事典である。以下に「虫屋」の定義について、はてなキーワードより引用する。

【「虫屋」とは】

昆虫を愛好し、その観察・捕獲・飼育・育成・標本作成・研究などを趣味とするひとのこと。一般に、虫好きを「虫屋」と呼ぶこともあるが、虫屋という呼称が示す一定のマニアックなレベルには到達していない場合がほとんどであり、そういう

ときは普通に「虫好き」と呼ぶほうが適切と思われる。(http://d.hatena.ne.jp/keyword/%25C3%25EE%25B2%25B0 2014年9月7日アクセス)

たしかに、この説明は「虫屋」という言葉の説明として概ね正しいだろう。一方で、この説明であれば、「虫屋」ではなく、代わりに「昆虫マニア」や「昆虫愛好家」という言葉を使ってもよいのではないと思われる。しかしながら、昆虫にかかわることを趣味とする人々、すなわち虫屋は、「昆虫マニア」や「昆虫愛好家」ではなく、「虫屋」という言葉を好んで使うことが多く、逆に一般大衆 (虫屋ではない人々) は、「虫屋」ではなく、代わりに「昆虫マニア」や「昆虫愛好家」(あるいは、それに類する言葉) という言葉を使っているように思われる。これは、「虫屋」、「昆虫愛好家」や「昆虫愛好家」という言葉は、表面的には同じような意味を持って、それぞれの言葉がもつニュアンスに何か違いが存在することを意味しているのであろう。

そこで、私なりにこの「虫屋」という言葉についての定義を再考してみたのでここに報告したい。何分概念の話なので異論も多々あり、私の意見が正しいかどうかはわからないが、その点についてはあくまで私の一見解であることをご理解いただければ幸いである。

さて、ここに「虫屋」と並列させて、「昆虫マニア」、「昆虫愛好家」という言葉を並べたのであるが、これは「リ

¹⁾ Kenta TAKADA 大阪市西淀川区

フレーム」というテクニックを使った言い換えである。リフレームとは、簡単に言えばある物事を違った枠組みでみるというものであり、リフレームを特定の言葉に適用することで、別の言葉にいかえることができる。例えば、「思い入れ」という言葉はニュアンス的には中立的であるが、これをリフレームによりポジティブな意味合いで使うと「こだわり」、ネガティブな意味合いで使うと「固執」になる。ここで改めて「虫屋」、「昆虫マニア」、「昆虫愛好家」という言葉について考えると、いずれも「昆虫にかかわることを趣味とし、昆虫に対して一定以上の思い入れを持つ人々」を指すのであろうが、「虫屋」には「こだわり」が、「昆虫マニア」や「昆虫愛好家」にはしばしばそれ以外にも「思い入れ」や「固執」というニュアンスがそれぞれ含まれるのではないだろうか。「虫屋」という言葉は、主にいわゆる虫屋自身によって用いられる言葉であり、使われる文脈から察するに、この言葉には「昆虫愛好家」という言葉に「職人」や「専門家」、「主義者 (-ist)」といった意味合いが付加され、結果としてポジティブな意味合いになっていると思われる。事実、広辞苑第5版で「屋」の意味を調べてみると、その中に「性向を表す言葉に添え、そのような傾向の人(わからず屋、がんばり屋)である意や、仕事や分野を表す語に添え、そればかりを専門にしている人(政治屋、技術屋)の意を表す接尾辞」であることが示されている。したがって「虫屋」という言葉には、自ら「虫屋」を名乗る場合にはそれぞれの昆虫趣味に対するプライドやこだわりが、他人を「虫屋」と呼ぶ場合には相手に対する仲間意識や敬意がこめられていると考えられる。

これらをふまえて、私なりの虫屋の定義を提唱したい。

【「虫屋」とは】

昆虫を愛好し、こだわりをもってその観察、捕獲、飼育などを専らの趣味として行うひとのこと。「昆虫マ

ニア」や「昆虫愛好家」という言葉とは異なり、昆虫に一定以上のこだわりをもつ人々によって、主にポジティブなニュアンスで使われる傾向にある言葉であり、昆虫を愛好するもの(あるいは専門家)としてのプライドや、昆虫を愛好するもの(あるいは専門家)に対する敬意などが付加されている。

本報告文は、文化昆虫学の観点から、リフレームというテクニックを使って「虫屋」という言葉の概念を探求することを試みた。しかしながら、この言葉をめぐっては、いつ誰が使い始めたのかなど未解明な点もあり、その問題についてはさらなる研究が必要である。

本報告文は、以前「きべりはむし」に投稿した拙著報告文「はじめての文化昆虫学—みんなで文化昆虫学の研究をしよう!」(高田, 2013a)の実践編に位置付けられる。文化昆虫学の報告文や論文を書くにあたっては、今回の報告文のように比較的自由的な発想で執筆してもよいと筆者は考えている。文化昆虫学は、「〇〇昆虫学」という名の学問でありながらも、人文科学であるという特殊な研究分野であるため、報告文や論文を書いても投稿先に困ってしまう場合が多々あることは否定できないが、今後文化昆虫学の普及が進むに従って、そのような問題も解決していくものと思われる。

末筆ながら、本報告文を執筆するにあたって、中峰空博士(有馬富士自然学習センター)には本報告文を完成させるにあたって原稿のチェックや写真撮影等、色々のご協力いただいたとともに、貴重なアドバイスをいただいた。また、英文アブストラクトについては、



図1 「虫屋」。写真は、「虫屋」が実際に昆虫採集をおこなっている様子。(A) オオゴキブリ *Panesthia angustipennis* とゴミムシダマシ類を採集するために、朽木崩しをしている。(B) クロハサミムシ *Nesogaster lewisi* を採集するために、アカマツの立ち枯れに生えるヒトクダケを網で掬い取っている。(2014年9月27日、中峰空博士撮影)

Andrea Appleton 氏 (アメリカのフリー・ジャーナリスト) に校正いただいた。この場を借りてお礼申し上げる。

文 献

Hogue, C. I., 1980. Commentaries in cultural entomology.

1. Definition of cultural entomology. Entomological news, 91(2): 33-36.

Hogue, C. L., 1987. Cultural entomology. Annual Review of Entomology, 2: 181-199.

高田兼太, 2013a. はじめての文化昆虫学 - みんなで文化昆虫学の研究をしよう! . きべりはむし, 36 (2): 26-27.

高田兼太, 2013b. ハサミムシの不名誉な俗称. きべりはむし, 36 (1): 20-22.